



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISH(03)3 20 2-03 4 2

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

- 国際会長主題 「輝かそう、あなたの光を」
- アジア会長主題 「変革のための光となろう」
- 東日本区理事主題 「未来のために今、学びと気づきを！
未来のために自信を育み、真の喜びに出会う！」
- あずさ部部長主題 「良い結果をもたらす心の安定と考える力を」
- 東京西クラブ会長主題 「無理をしなくて歩く 希望の光に向かって」

2023年12月号

NO 567

実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。
ローマの信徒への手紙10章10節

音訳ボランティアを続けて

篠原 文恵

活動のきっかけは、クラブ入会間もないころメンバーの神谷幸男さんが杉並区のNPO音声訳集団の方を卓話にお願いした時。

PCさえあれば自宅にいても続けられるとのこと、早速練馬区の団体を訪ねた。そこでは東京世田谷クラブの小原武夫さんが理事をしていらっしゃるとうり理事長から伺い、YMCA活動の幅広さを強く感じることもあった。

書籍や新聞などの記事を朗読して国際標準規格でCDに記録し図書館や利用者に届ける活動をしている団体で、私は音源に頁や目次などを加えて書き込むDAISY作業を担当して10余年が経った。音訳者の苦勞としては、下調べ、下読み、校正、図表や写真説明などは説明台本を作成、あくまで黒子役なので感情は入れないが、棒読みは聞きづらいので加減が大変そう。

編集担当者(DAISY)は、文章の間の修正(秒単位)、音訳者の口中音(舌鳴り)の削除がある。年齢を重ねると義歯などで自分でも気づかない音が発生するから卒業の決断は思いのほか難しい。単行本の他、毎月の新聞記事抜粋、銀座百点、東洋経済、広報誌など多岐にわたる内容は作業する当方には情報を深く知ることにより繋がり達成感を得られる。

ただ、ボランティアなので家事の合間に作業をする若い後継者は足りないが、優しい語りかけに対する点字のファンレターを毎月受け取るメンバーの心は温かい。中には「ラジオ深夜便」などで活躍した音訳者もいるようだ。緑内障、糖尿病などで中途失明する方が増え、AIによる合成音声が発達してもまだまだ情報を必要としている方がいる限りこの活動を続けたい。



東京の晩秋：上段はWHOで訪れた井の頭公園、中段は神宮外苑

クラブ役員

- 会長 本川 悦子
- 副会長 神谷 幸男
- 書記 村野 絢子
- 会計 篠原 文恵
- 担当主事 横山 弥利

11月の記録		ニコニコ	0円
在籍者数	11人	メネット	0人
(内功労会員)	1人	クラブファン	0円
出席者数	7人	コメント	1人
ファン	残高	114,715円	
メーカー	0人	ビジター	3人
ファン	残高	2,000円	
出席率	70%	ゲスト	1人
ファン	残高	31,370円	
内Zoom参加	0人	出席者合計	11人
WHO参加者			37人

12月クリスマス例会のご案内

強調テーマ： キリスト教理解、IBC

今年の4月に弓町本郷教会の二俣裕美子さんをお迎えして、障害児教育に音楽療法を取り入れた活動を行っていることを伺い、実際にトーンチャイムなどの体験を楽しみました。

今回は楽しいクリスマスにちなんだ曲をみんなで歌い、ちょっぴり演奏に参加できると嬉しいなと思っています。

日時：12月21日(木) 18:30~20:30

会場：阿佐ヶ谷地域区民センター 第4集会室

杉並区阿佐ヶ谷北1-1-1 03-5356-9501

会費：2,500円(どなたも)

担当：B班(大野、神谷、河原崎、篠原)

HAPPY BIRTHDAY

4日 神谷 雅子 15日 吉田 廸子
18日 村野 絢子

受付 篠原 文恵
司会 大野 貞次

開会点鐘 会長・本川 悦子
いざたて斉唱 一 同
聖書朗読・祈祷 大野 貞次
会長挨拶・ゲスト、ビジター紹介

会食

クリスマスソングをみんなで楽しみましょう

ゲスト 二俣裕美子さん

ハッピーバースデイ 会 長
ワイズ報告 会 長
YMCA 報告 横山担当主事
ニコニコ 一 同
閉会点鐘 会 長

—11月事務会報告—

日時：11月23日(木)

16:30~17:30

会場：阿佐ヶ谷地域区民センター
第7集会室

出席者：大野、河原崎、篠原、本川

<報告事項>

①会計報告：

別紙報告書で承認された。

②山手コミュニティセンター館長・大津桃子さんから、チャリティラン協力の報告とお礼状をいただいた。

③WHO10月例会は、元石巻広域センターの関喜郎さんが、吉田明弘さんに代わって案内をしました。

11月は樋口順英さん(東京グリーン)が案内してくださいませ。

④今年から“やまてのまつり”に東京西クラブとして参加しました。

<協議事項>例会関係

①12月例会は弓町本郷教会の二俣裕美子さんをお願いした。プログラムは大野さんと協議してもらう。

②1月例会は樋口順英さん(東京グリーン)に戦後のポピュラー音楽史についての卓話をお願いしています。

担当Aグループ：石井、高嶋、村野、吉田、横山
<協議事項>その他

①12月10日(日)松本クラブ創立35周年記念例会、第25回記念「アジア賞」授賞式に神谷副会長が出席予定。

②次年度クラブ会長に大野貞次さんが引き受けることを承諾してもらった。

③現在のクラブメンバーには故障害者や高齢のため、活動に支障が出ている。このため、本音で今後のクラブの存立などについて語り合いたい、例会では話す時間がないので、是非事務会に出席してもらいたい、との意見が出た。

<今後の予定>

①2024年在京ワイズ会長会

日時：1月13日(土)10:00~11:30

会場：東京YMCA 東陽町コミュニティセンター

出席者：本川、横山

卓話者紹介

二俣裕美子(ふたまた・ゆみこ)さん

1972 埼玉県草加市の加藤学幼稚園にてキリスト教に触れて育つ。

1990年国立音楽大学教育音楽学科第Ⅱ類卒業、在学中から知的障害を持つ子どもたちの音楽活動や都内各地の障害者施設の非常勤講師に従事しながら音楽療法を学ぶ。

1994年二俣泉と出会い弓町本郷教会に通い始め、受洗。2002年に日本音楽療法士学会認定音楽療法士資格取得。2008年~2013年幼稚園の母親のためのハンドベルサークルの指導に従事、現在子供から大人までのピアノ指導を行う。

PITNA ピアノ指導者連盟会員。著書「静かな森の大きな木・誰かの音がする」(春明社・共著)

◎2024年在京ワイズ新年会

同日13:30~

会費：3,000~4,000円

予定参加者：本川、石井、神谷、河原崎、篠原、高嶋、(書記代理・篠原文恵)



山本有三記念館の「路傍の石」の前で

写真上は例会卓話者を囲んで
記念撮影、写真左は卓話者の
須永達夫さん

—11月例会報告—

東京西クラブ11月例会は16日(木)18:30から阿佐ヶ谷地域区民センターにて開催された。

開会直前にハプニングが発生した。出席予定であった吉田明弘さんが身体の不調により転び、急遽救急車で搬送されるという事態の発生であった。しかし例会は予定通り開催された。プログラムにも若干変更があり司会者は大野さん、聖書朗読・祈祷は神谷が担当した。

本日のメインプログラムは元三井金属鉱業(株)副社長・須永達夫さんの卓話「金(きん)のよもやま話」で、レジュメに沿ってお話をされ、とても面白い話であった。

卓話の概要は、金という金属の特性、金の生産量、世界の埋蔵量、日本の鉱山の産出量、金の価格はどうか決まる、日本の歴史の中での金(関りのあった出来事、建物・人物など)。

古代では1784年に福岡県志賀島で発見された「漢委奴国王」金印、浅草宮戸川で発見された金の観音像、奈良時代では、山上憶良の詠み。奈良の大仏建造、日本初の金貨鑄造、遣唐使(砂金持参)、平安時代では中尊寺金堂建設(藤原清衡)、鎌倉時代では金売り吉

次、室町時代では金閣寺、安土桃山時代では武田信玄による黒川金山の開発、佐渡金山の発見、聚楽第建設(豊臣秀吉)、江戸時代になって銀座・銀座開設(徳川家康)、慶長大判・小判の鑄造、名古屋城の金の鯨銚。

近代・現代では主要金鉱山の民間払下げ、諸鉱山の近代化推進、太平洋戦争時代の鉱山乱掘、佐渡金山の閉山、菱刈鉱山開設、東京オリンピックではリサイクル金で金メダル作成、等、興味深い話が満載、時間も大幅に延びて各種報告、ニコニコなど割愛して閉会点鐘となった。(神谷幸男)

出席者：石井、大野、神谷、河原崎、篠原、本川、横山、<ゲスト>須永達夫、<ビジター>小原史奈子・藤江喜美子(東京たんぽぽ)、大輪匡史(東京武蔵野多摩・休会中)

三鷹駅から井の頭公園へ —11月WHO報告—



大勢の見学者で賑わう三鷹跨線橋

最高気温が前日から一気に10度以上下がり、風が冷たい真冬の寒さでしたが、32人が参加しました。まずは三鷹駅北口から線路沿いの道を三鷹跨線橋(こせんきょう)に向かいました。太宰治がこよな

く愛した橋として知られています。しかし、1929年架橋以来90年以上経過し、老朽化のため今年12月に閉鎖し、2年ほどかけて撤去する計画になっています。橋の上は今が見納めとなるため、多くのファンでにぎわっていました。残念ながら丹沢山系の向うの富士山は雲隠れでした。

つぎに、三鷹駅南口に戻り、玉川上水に沿って「風の散歩道」を歩き、「しばらくみないうちにずいぶん変わった」と感嘆しながら山本有三記念館に行きました。大正末期に建てられたコンパクトな洋館で有三が10年間(1936~46年)家族と暮らした家です。屋内外ともきれいに管理されて好感。家の前の「路傍の石」を前に記念撮影。

井の頭恩賜庭園では、雑木林でゆったりとした昼食タイム。ベンチが多く全員がゆったり座ることができました。トイレもよく管理されていました。

弁財天から見た井の頭池は、色づいた木々と青空が水面に映り、絶妙なコントラストでした。

今年生誕100年を迎えた作曲家小田喜直の歌碑(小さい秋見つけた)をみて弁天橋を渡り、お茶の水(徳川家康がお茶を入れたとされる)、作詞家野口雨情の歌碑(井の頭音頭)などを散策しながら、池に写る見事な紅葉を楽しみました。本当にいい時期にきてよかったです。七井橋たもとで解散、様変わりした七井橋通りをへて、思い思いに帰途につきました。(WHO事務局)

気分転換は料理⑨ CHRISTMAS DINNER

村野絢子

食前酒	ホットワイン
オードブル	チーズフォンデュ バゲット・サーモン・銀杏・ミニトマト
サラダ	サラダ菜 パプリカマリネ オリーブキュウリ 人参 レタス チーズ
メイン肉	ローストビーフ (ポーク・チキン) マッシュポテト
スープ	舞茸コンソメスープ
メイン魚	海鮮シチュー ワイルドライス
デザート	マフィン アイスクリーム ワインソース フルーツ
コーヒー・紅茶・ハーブティー	

現在用意できるものにメインの肉を加えれば出来るメニューを作りました。

色と味のバランス、料理の映える器を考えるのが楽しいです。その前に我が家は食卓のテーブルを空

にする大仕事が待っている…。

*1 チーズフォンデュ鍋 (写真右) 陶器のスイス製はナチュラルチーズ数種にブルーチーズも加えて白ワインで滑らかに伸ばす。フォンデュ用のフォークでバゲットなどを刺し、チーズを絡めて食べる。

*2 ワイルドライス 2.5kg 袋 (写真左) 2020年1月のブリテンで詳しく紹介済み。紀伊国屋には200g入りを売っているが時々食べたくなるのでカナダからの輸入元から直接送ってもらい常備している。白米に混ぜて炊き、バターと塩少々刻んだクルミを混ぜる。それだけでもおいしい。

味覚は人さまざまだがこのメニューで喜んでいただければ嬉しい。



YMCA Today

■ホテル学校では、12月4日で2学期授業が終了し12月7日より海外研修旅行を実施。国内で実施していたコロナ禍から4年ぶりの海外研修となりました。恒例のヨーロッパ訪問ではなく香港へ行き、宿泊先はザ・ペニンシュラ香港、ザ・リッツ・カールトン香港など超高級ホテルばかり。美味しい食事も観光も楽しみ、卒業を控える2年生にとって思い出となる研修旅行になりました。また、1年生はホテル実習中。クリスマス、年末年始と多忙な時期を迎えるホテルで奮闘中です。

■「山中湖センター100周年記念感謝会」が山中湖センターで開催。10月28日に会員、山中家族キャンプ関係者、山中湖村関係者、近隣YMCA関係者、リーダーOB・OG、現役リーダー、職員など約83人が集まりました。第1部の記念礼拝では堀光雄牧師(山中家族キャンプチャプレン)に奨励を、第2部では、青山鉄兵氏(文教大学人間科学部准教授/東京YMCA評議員)より「YMCAキ

ャンプの持つ力」と題して記念講演をいただき、好評でした。第3部では食事をとりながら、レクリエーションやキャンプソング等の交流の時間を持つことができました。2月4日には「山中湖センター100周年記念チャリティーボウリング」(ボウリングサロン・ザプリンスパークタワー東京)を行います。趣旨にご賛同いただき、お仲間をお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

■昨年の2月に引き続き「全体職員研修会」が11月3日に東陽町センターで開催されました。今回はオンラインも交えたハイブリッド開催となり、東京YMCAグループの職員277人が参加しました。阿部頼義氏(グレースガーデンチャーチ牧師/難民医療支援会プレシオン代表)に「隣人愛の精神と実践~教会・難民支援の現場から」と題して基調講演をいただいた後、約40のグループに分かれて、感想等を分かち合う時間を持つことができました。

担当主事 横山弥利

編集後記

11月から例会場が阿佐ヶ谷地区区民センターに変わったが、施設ごとに微妙に使用制限が変わる。弁当持ち込みは表向き黙認が通り相場だが、当会場は2部屋続きを統合して借りると食事は可とのこと、マイクも然り。

しかし、会場は抽選制で月ごとに使用制限が変わると例会の計画はかなり不規則にならざるを得ない。今までも事務会場が荻窪や山手センターなどと変更が多く、参加者は間違っても他会場へ行ってしまったこともある。

これから高齢化していくメンバーの利便性を考えると何とかしなければと思う。夜の外出の不安さを考えると、夕食をみんなで食べる例会の常識も検討の余地を考えるとようになった。仕事をしているメンバーも少なく、ゲストも同様と思われる。何でも高齢化のせいにするのは、それこそ老人のグチとなってしまうが、無理をしないで長く活動できる環境を作っていく必要があるとメンバー内で話し合っている。(F.S)